

【出題の意図と対策】

1 近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。会話形式の問題では、発言者それぞれの意見の主旨やキーワードとなる言葉を的確につかみ、発言の内容を正確に読み取ることが大切です。普段から人の発言などを注意深く聞き、すぐに頭の中でポイントをとめる訓練をするように努めましょう。

【解答】

① 例 並べて「棚に並べて」

② イ

③ 見に来てくださって

④ 例 確認しますので、お待ちください(15字)

【解説】

① ポイント《語句の知識があるかどうか》

「陳列」は「人に見せるために、作品や製品などを並べること」を意味する言葉です。

② ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

【場面2】の客Dに対する店員Bの発言に注目しましょう。イは「広告に載っていた卵」が欲しいという客Dの意向に配慮しつつ、その卵が売り切れたことを説明し、他の卵を勧めめているので正解です。アは客Dの意見に「譲歩(＝自分の意見や主張をまげて、相手の意見に従ったり、妥協したりすること)」しているわけではないので誤り、ウは店員Bが客Dの「発言の真意を理解」していないわけではないので誤り、エは客Dの当初の希望である「広告に載っていた卵」を紹介しているわけではないので誤りです。

③ ポイント《敬語の知識があるかどうか》

「くれる」を決まった言い方の敬語表現を使って尊敬語にするのと、「くださる」になります。ここでは、文脈に合わせて「見に来てくださって」と書き改めます。

④ ポイント《発言の内容を理解できるかどうか》

山下さんは、買った商品を家に配達できるかどうかということについて、他の店員に聞いてみるように客Eに勧めましたが、自分自身が答えることは考えていませんでした。担任の先生からそのことについて指摘されたので、自分が他の店員に確認して、その結果を客Eに伝えるべきだったと反省しているのです。

【出題の意図と対策】

2 文学的文章(小説)の読解です。小説は、主人公のものの考え方や感性、その生き方などを通して、人間とは何か、生きることの意味は何かなど、人間にとって重要なテーマを読者に訴えかけようとするものです。ここでは重松清の『きみの友だち』を題材に、主人公たちの関係や、心の動きを読み取ります。小説を読むときには、できるだけ登場人物の立場に立って、その境遇や心情に寄り添いながら読むようにしましょう。

【解答】

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

① ② A 創部以来初めての市内優勝

③ B 市の代表に選ばれる

④ ⑤

⑥ ⑦

例 自分だけが選抜チームのメンバーに残る自信があるに

もかかわらず、ブンはだいじょうぶで、自分は無理だろう

(50字)

⑧

【解説】

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

② ポイント《人物の関係を理解できるかどうか》

サッカー部でブンとモトのコンビネーションは冴えわたっており、その勢いが夏の大会までつづけば、「創部以来初めての市内優勝」が狙えそうな状況にあります。また、二人には七月にオーストラリアの姉妹都市でおこなわれる遠征試合で「市の代表に選ばれる」という、もうひとつの大きな目標があるのです。

③ ポイント《熟語の構成の知識があるかどうか》

「競争」とオ「祈念」は意味が似ている漢字の組み合わせ、ア「即効」は上の漢字が下の漢字を修飾するもの、イ「添削」は意味が対になる漢字の組み合わせ、ウ「人造」は主語と述語の関係、エ「赴任」は下の漢字が上の漢字の目的や対象を示すものになっています。

④ ポイント《人物の行動を理解できるかどうか》

中江先生がグラウンドに出てきたあとのブンの行動に注目しましょう。「俺じゃなくて、モトみたいなトップを絶対に欲しい」と思うぜ、あの監督」という言葉の、「俺じゃなくて」の部分で「自分の顔を指差して、無理だよ無理、と手を横に振る」という行動、「モトみたいなトップを絶対に欲しい」という部分で「きみを指差して、OKマークをつくる」「拍手のジェスチャー」などの行動で表現していることを読み取りましょう。

⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

「謙遜」とは「自分の価値や能力を低く評価して、控え目にするまうこと」を意味します。㊦の直前に「なんで『だいたいぶだよ』なんて言ったのだろう」とあることから、「つまらない謙遜」とは、モトが「メンバーに残る自信はあるし、合宿の様子を冷静に判断して、ブンはちよつとヤバイかもな、とも思う」気持ちがあるにもかかわらず、ブンに「だいたいぶだよ、ブンなら。俺のほうがヤバイよ、マジ」と言ったことだとわかります。このような内容を条件に合うようにまとめましょう。

⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

モトは「美紀をめぐる一件以来、そんなことをしよっちゅう考えるようになった。自分がどんな嫌いになる」と感じています。「そんなこと」は、少し前の「メンバー発表のときにブンの名前がなかったら、その瞬間、やったぜ、と勝ち誇って笑うはずの自分がいる」ことを指すことから、モトが心の片隅ではブンの不幸を願っていることが読み取れます。よって、エが正解だとわかります。

【出題の意図と対策】

3 説明的文章の読解です。論説文は、あるテーマに関する研究内容やデータなどについて、筆者が考えを述べた文章です。ここでは、河合隼雄の『日本人の心のゆくえ』を題材に、日本人にとって重要な「もったいない」という概念について考えます。論説文を読むときには、その文章が何について書かれているかを理解し、そこから筆者がどういう結論や考え方を導き出しているかを読み取るようにしましょう。

【解答】

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

④ A 必ずしも当然でもなく一般的でもない

⑤ B もう一度異なる角度から見直す

⑥ ⑦

例 「もったいない」は非難の意味と感謝の意味という正反

対の意味に使われる言葉であり、反対の関係にあるものを明確

に区別せず、そのときの文脈に応じて適当な判断を加えるとい

う日本語の特徴をよく表しているから。(99字)

【解説】

- ① ① a 「贈」を「送」と間違えないようにしましょう。
- ② ポイント《品詞の識別ができるかどうか》
- ③ b 「つながり」は「つながる」という動詞からできた名詞（転成名詞）です。オ「この」は連体詞、カ「出会う」は動詞、キ「日本」は名詞、ク「ずいぶん」は副詞です。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
「もつたいない」という感覚について、第四段落で「これは日本人にとっては極めて重要な概念である」、第六段落で「もの自体、それがどんなものであれ、その存在に価値を置くのである」「人間と独立に、ものの存在に対して畏敬の念をもつことである」などと説明している、ウが正解です。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
他の文化圏の人から英語で精神分析を受けることの利点について、第三段落で「自分が当然のこととして感じ、考えていることが、必ずしも当然でもなく一般的でもないことを知り、そのことを他の文化の人に説明する過程において、それをもう一度異なる角度から見直すことができる点にある」と述べていることに気づきましょう。
- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
⑥で『それに対して投入されたエネルギーの量』などと明確に言われると、反射的に『ノー』と言いたくなる」と述べていることに注目しましょう。第七段落で、このような返答をするときの心境を「英語で話をしていると、どうしても明確な表現になる。自分で説明しながら、何だか言い過ぎだと感じるが、どうしようもなく、もどかしい感じが残る」と説明しています。
- ⑦ ポイント《文章の内容を理解してまとめられるかどうか》  
最後の二段落の内容に注目しましょう。⑦の「そんな点」の指す内容は、「日本語で話をしているとき……明確に区別しないままで、そのときの文脈に応じて適当な判断を加えているので、「もつたいない」という言葉が「不都合な、という非難」の意味と、『かたじけない』と言う感謝の意味』のような、「まったく反対の意味に使われるように感じられる」という事態が生じることです。筆者は、このような事態は「欧米人には非常に奇妙に感じられるのではなからうか」と推測し、『もつたいない』は、そんな点で、極めて日本的な表現である」と述べているのです。これらの内容を押さえて、指定の字数に合わせてまとめましょう。

4

【出題の意図と対策】

古文とその解説文の読解問題です。古典文学は、日本人の感性や独特の文化を創り上げる礎となった貴重なものです。ここでは、『おくのほそ道』について、高橋英夫が解説を書いたものが題材になっています。古文は、かなづかいや表現法が現代文と違い、難解なものに感じられるかもしれませんが、作品を通して、いにしえの人たちの心に触れてみましょう。

【解答】

- ① 自然に触れて湧いた懐古の情（13字）
- ② 古き世、い
- ③ あおばのこずえ、なおあわれなり
- ④ イ

【現代語訳】

京にても京なつかしやほととぎす  
（いにしえの歌人たちによって歌われてきたほととぎすの鳴き声を聴いていると、今は見慣れた京にいるのにもかかわらず、昔の京がなつかしく思えてくることだ）

数多い関の中でも、この関は三関の一つにあげられ、詩文を作る人々の関心が向けられている。（能因法師の「都をば霞」ともに立ちしかど秋風ぞ吹く白川の関」という歌の）秋風の響きや、（源頼政の「都にはまだ青葉にて見しかども紅葉散りしく白川の関」という歌の）紅葉を思い浮かべながら、（今は秋ではないから、青葉の梢を仰ぎ見るのだが、）この青葉の梢のさまも、やは

り深い趣がある。卯の花の白いところに、さらに白い茨の花が咲き添って、雪の折にでも関を越えているような気がする。昔、陸奥守竹田大夫国行が（この関を越えるとき）冠をかぶり直し、衣服を整えて通ったということなどが、藤原清輔の著書『袋草子』に書き留めてあるとかいうことだ。

卯の花をかざしに関の晴着かな

（古人は冠を直し、装束を改めて、この関を越えたというが、自分には改めるべき衣服もないことだから、道のほとりに咲いている卯の花を折り取って挿頭とし、これを晴着にして関を越すことだ）

【解説】

- ① ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
「京にても……」の句の後に続く解説文で、筆者は芭蕉の胸にこみあげてきたなつかしさを「自然に触れて懐古の情が湧いた」という意味と、音（音楽）を耳にして過ぎし日々の記憶が湧き出したという意味の、どちらにも理解することができる」と述べています。
- ② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
②の次の段落の内容に注目しましょう。日常生活のなかで胸にこみあげてきたなつかしさを「なつかしき日本」に置き換えるために必要な要素として、筆者は「古き世、いにしえの人への心底からの敬意と憧れ」を挙げています。
- ③ ポイント《かなづかいの知識があるかどうか》  
歴史的かなづかいの「を」は「お」に、「ゑ」は「え」に、語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直します。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》  
「おくのほそ道」の後に続く解説文で、筆者は「古来の仕来りに従って、僧形の芭蕉と曾良も衣の襟を直し、裾の皺を伸ばしたにちがいない」「なぜここで身を整え、『晴』の心で越えるのか、と問う気持など生じなかったにちがいない。古くからそうすることになっていたのである」などと述べています。これらのことから、イが正解だと考えられます。